

りんごの栽培指針

①品種構成

1. 収穫労力が一時期に集中しないよう早生：中生：晩生の比率は1：2：7程度とする。
2. りんごは同一品種では結実しないので、複数品種を植える。
3. 「ふじ」の導入に当たっては、着色系統を選ぶ。（長ふ6号・三島系統）
4. 台木は雪害に強いマルバカイドウ台木のほか、排水の良い土壌では、わい性台木J M 7 またはM.26とする。

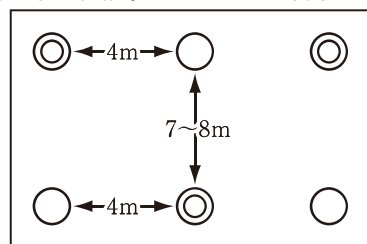
・品種別収穫期の目安

品 種	収 穫 期
さ ん さ	8/25～ 9/ 5
秋 映	9/25～10/10
陽 光	10/ 1～10/20
こうたろう	10/10～10/25
シナゴールド	10/10～10/25
ふ じ	11/10～12/10

②苗木の植え付け

1. 苗木は、7～8m×4m（32～36本/10a）の間隔で植え付け、7～8年後、樹が込み合ってきたら1本おきに間伐する。
2. 11月～降雪前または3～4月上旬発芽前までに植え付ける。
3. 苗木が届いたら、1晩根部を水に漬けておく。その後トップジンM水和剤の500倍液に10分間根部を浸漬する。
4. 排水の良いほ場は、30cm程度の植え穴を掘り植え付ける。排水の悪いほ場では土を盛って植え付ける。
5. 掘り上げた土に改良資材を混ぜて埋め戻しておく。植え付ける時には苗木の接ぎ木部を地上に出し、植え付けた後に地面より低く沈まないよう浅植えをする。

・植え付け間隔(マルバカイドウ台木の場合)



◎：永久樹 ○：間伐樹

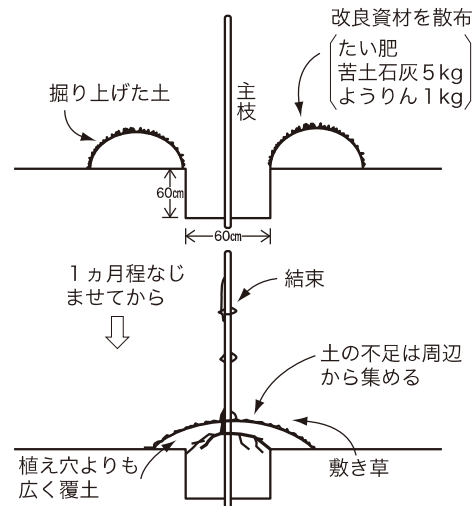
③施 肥

・基準施肥量（10a当り 時期：11月～3月の葉の無い期間に行う）

	肥 料 名	施 用 量	N	P	K
1～10年生	果樹専用1号	20～40kg	3～6kg	2～4kg	2.6～5.2kg
10年生以上	果樹専用1号	40～60kg	6～9kg	4～6kg	5.2～7.8kg

- ・苗木植え付け時の施肥方法
直径約60cmの植え穴に対し、完熟堆肥 10～15kg、
ようりん200 g、苦土石灰200 gを施す。
- ※苗木植え付け時にチッソ肥料は施さない。

苗木の植え付け方



④摘 果

1. 予備摘果（一輪摘果）

- (1)満開後2週間頃から花そう葉が多い花に結実した果実を1つ残す。遅れ花は良い果実にならないのですべて摘果する。遅くとも満開後30日頃までに終わらせる。
- (2)形の良い「中心果」を残す。中心果に傷がある場合は側果を利用する。

2. 仕上げ摘果

- (1)予備摘果が終わったら仕上げ摘果に移る。遅くとも満開後60日頃までに終わらせる。
- (2)「ふじ」では50～60葉（4～5頂芽）に1果の割合に、5～15cm程度の中果枝や短果枝を主体に残す。
- (3)仕上げ摘果終了後、収穫まで過剰に着果している部分や病虫害果、成熟不良果を見直し摘果する。

⑤せ ん 定

1. りんごのせん定の注意点

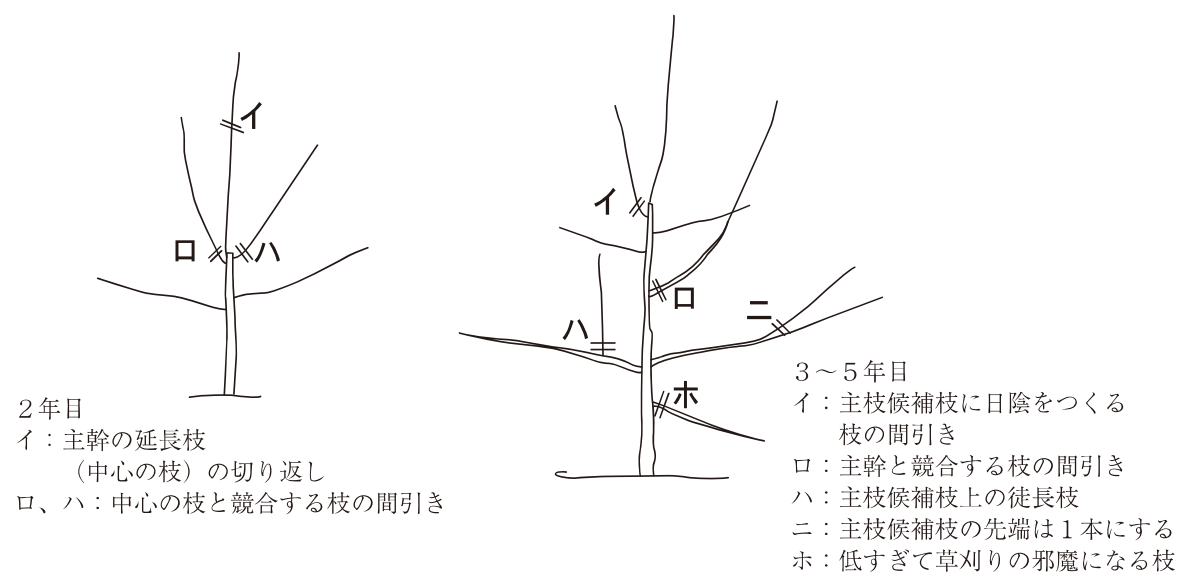
- (1)りんごは頂芽（先端の芽）に花芽がつくので間引きせん定を主に用いる。
- (2)結実が始まると枝が下垂しやすい。下がった枝に良い果実がなるので下がり枝を切りすぎないように注意する。

2. 1～5年生

- (1)植え付けた苗木は80～100cmの高さの充実した芽で切り返す。
- (2)2年目は先端から発生した最も強い新梢を主幹の延長枝（中心の枝）として育てる。
中心の枝はまっすぐ伸びる枝1本を残し、競合する枝（発生角度が狭い立ち枝、中心の枝より太くなりそうな枝）を元から切除する。
- (3)3年目以降、主幹（中心の枝）は切り返し、競合する枝は間引きせん定する。主幹より細く、発生角度が広い枝を残して主枝候補枝として育てる。
- (4)3～5年生 主枝候補枝の背中に発生する徒長枝は切除する。また、主枝候補枝の先端は1本となるよう競合する枝を切除する。

3. 5～10年生以降（5年生ころから結実する）

- (1)主枝候補枝の中から作業のしやすい高さの枝（P101の柿の主枝の選び方を参考に）を選んで将来の主枝として育てる。
- (2)地上2.5mくらいの高さで最上段の主枝を決定した後、それより高い枝を数年かけて順次切る。また、最上段の主枝が太くなり、花芽が多くなってから心抜きを行う（15年生以降）。



⑥品質管理

1. 適期収穫

「ふじ」では、地色カラーチャート指数4程度で地色が黄色味をおびた状態の果実から収穫する。

2. 選 果

成熟不良の果実は地色の青味が残りと、果実表面がツルツルした感じで区別できるので除外する。

ツル割れの大きい果実や、その他果実腐敗のおそれのある果実を除外する。